いきいき協働事業評価シート

担当課用（障がい者支援課）

○ 協働事業の概要

記入年月日　平成30年3月1日

事　業　名	子育ての難しさ・不安を持つお母さん／支援者のための支援手法「ペアレント・プログラム」
団　体　名	NPO 法人　こども未来ラボ
担当課名	障がい者支援課
事業期間	平成29年4月3日～平成30年3月31日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。（計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。）

発達障がい者支援において保護者支援は重要な課題であるが、子どもとの関わり方について子どもの特性を生かしながら対応する方法を伝えるペアレントプログラムは、参加した保護者のアンケートで回答者の88％が「有効であったと思う」と回答していることから、課題解決に効果的な事業であったと評価している。

また、アンケートの中で、「子どもへの対応がうまくなった」と答えた保護者が75％いることからも、ペアレントプログラム実施により発達障がいの子どもをもつ保護者が変わり、それが結果として発達障がいの子どもへの支援にもつながっているのではないかと評価している。

②団体の長所を、発揮させることが出来ましたか。（市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開ができましたか。）

講演会、講座の受付時の対応、終了後のフォロー等、発達支援に特化したNPO法人ならでは細やかなアドバイスや支援が実施された。

また、当該NPO法人との意見交換に中から、プレ講演会、講座への支援者参加、親カフェなど、当初の提案になかったものを積極的に取り入れるなど、「発達障がいの子どもや保護者にとって何か必要か」ということを常に考えながら、地域に根づいて活動しているNPO法人だからこそできる対応であったと評価している。

③協働の姿勢が図られましたか。（互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。）

今回の協働事業では、事業実施にあたり、何十回と打合せを重ね、お互いに相手に任せるのではなく一緒に進めていった。

事業を実施して、協働事業で一番大切なことはそれぞれの立場でできることを臨機応変に即実施することであると実感したが、そのためには相手の立場やできることを把握するために、意見交換を密にし、共に行動することが必要である。そうした意味から、当該NPO法人は最高のパートナーであった。

④改善提案がありますか。

ペアレントプログラムを中心とした発達障がい者及びその保護者支援がさらにひろがる支援策（地域との連携、地域の支援力向上等）を、当該NPO法人と一緒に検討していきたい。

自由記載欄